

---

# ナイショの恋

陽菜岸柚季

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナイシヨの恋

### 【Nコード】

N6712X

### 【作者名】

陽菜岸柚季

### 【あらすじ】

最初は唯の教師（中原）が大嫌いだった。くだらないことで叱られて、自分がいけないのに友達と一緒に嫌っていた。早く来年にならないかなと思っていた唯だったが、だんだん中原の優しさと面白さに惹かれてしまい・・・

## プロローグ（前書き）

この小説を見てくれたみなさん。

ありがとうございます

初心者なのであまり上手くないかもしれませんが、  
興味のある方は、是非読んでくれるとうれしいです？

（比較的読みやすいほうですw）

## プロローグ

嗚呼・・・

私っては何であの時なぜアイツを嫌ってしまったのだろう・・・

もう少しいるんな話をしたかった。

もっともっと一緒に笑いたかった。

持久走だって、アイツがいてくれたからあんなに速くなれたんだ。

大嫌いな教科も、アイツはしっかり教えてくれる。

感謝しなければいけないことが数えきれないほどある。

そんなこと言っただって。

時がとまってくれるはずはないのに。

今はこんなことしか言えない。

きっとアイツのことは一生わすれない。

絶対に。

## 第一章（前書き）

ーっ！

みなさんにお知らせを。

この話はだんだん「えッ?!」「なぜに?!」「あれれ!」  
と思う方が大半だと思います。

実はこの話は少し事実を入れているので

（しいて言つと、ちよいノンフィクションw）

なんです。後、中学校もくつついている設定ですw

（事実もとにしているので・・・）

+実は!、海外に住んでいる話なので、日本とは違います。。  
まあ、「へええ」ってカンジで読んでくれるとありがたいですw  
「これ違う!」と思っても・・・勘弁してください；

## 第一章

「うっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっう」

私の名前は「唯」小学6年生。2か月前にここに転校してきた。趣味は本とパソコンと友達のおしゃべり。

勉強は出来るといえば出来るが最近あまり良くない。

私の小学校は普通の小学校とは違い、超少人数。

今は、唯を合わせて3人。男子はいません。

数学のテストの時間、私はえんえん泣いていた。

「唯・・・トイレ・・・いこっか・・・」

そう言われて帆香と琴音はトイレに私をつれていってくれた。

「唯！！唯は悪くないんだよ！！アイツが悪いの！！てゆうかそもそも何なの？！」

唯をこんなに怒鳴る理由がおかしすぎる！！たかが定規がなかっただけで、

なんで怒るのお！！！」

帆香は相変わらず声が大きく、一生懸命唯をかばった。

「・・・ひっくひっく」

「そうそう！・・・でもあたしのせいかな・・・」

うちが筆箱忘れて・・・それで！・・・」

琴音は私のせいだよと言った。

「・・・そんなことないよ・・・私がつ・・・悪いのッ・・・」

まあ今思うと、琴音のせいかもしれない。

琴音は筆箱をわすれて、唯は予備のものを貸した。そしてなんとなくその中に

唯の定規があった。それに気づかず、テストを受けてしまい、こんなことになってしまったのだった。

でも、その時の私は誰のせいだとか、もうどうでも良くてただ、中原先生を恨んでいた。

「唯ッ！！！！もう！弱気になるなつつうの！ちょー意味わかんない  
アイツ！」

「・・・二人ともありがとう・・・あ、そろそろ次の授業始まっ  
ちやうよ・・・」

家庭科室いこつ。二人とも・・・本当ありがとう・・・」

「そうだね！もうアイツなんか無視無視！早くいこつ！」

「唯・・・元気出して。泣いてたら恥ずかしいよ！」

優しい二人になぐさめられながら、唯と帆香と琴音は家庭科室へ走  
った。

「えーと。唯さん。これはね、なみぬいだからねえ。」

家庭科の城本先生が複雑な顔をしながらも厚く教えてくれる。  
でも、唯以外は黙々とみんなやり続けているのだが。

「・・・あ、はい。どうも。」

裁縫・・・というか、家庭科自体は大の苦手なのに。  
とぶつぶつ心の中でずーとつぶやいている。

もちろんさつきあった辛い出来事も忘れようと頑張っていた。

「・・・よし。出来そう。あッ！痛てて・・・」

指から軽く血が出てきた。

急いで舐めてから、近くにあったバンソウコウを指にぺたりと貼る。  
そして隣にいる琴音がつぶやく。

「ほらほら。力入れ過ぎなの！こつやって、こつやれば・・・。」

「おお！出来た！さっすが琴音ッ！」

「へへ。ありがとう。家庭科とかは、得意なんだ。」

横で帆香はムツとしている。

「・・・すごいけど・・・まあ。」

「帆香ちゃん！そんなねー。ほら、正直になろうよ！」

「はいはい。」

唯も笑顔になろうとしているが、イマイチ悲しくなるだけだった。

「じゃあこれで家庭科終わり！。ちゃんとプリント持ってきてくださいよ。」

城本先生は生徒みんなに呼び掛けた。

「……………あたし。教室戻りたくないんだけど。」

「大丈夫だよ。」

「気にすんな！」

こう言われるのでしぶしぶ教室に戻る。

まだ中原先生はいない。

多分、中学生に勉強をおしえてるんだよと二人が教えてくれる。

気分は沈んでいたが、一つだけほっとすることがあった。

それは、親に知らなければ別にいいじゃん。と……。

そんなことを考えているうちに先生が来た。

「えーっと。じゃあ。漢字やってきてね。」

今日職員会議あるから、早めに終わらせないとな。

じゃあ。さようなら。」

出来るだけ目を合わせないように努力し、早く終われいと念じていた。

「さよーなら……………」

そして放課後、早く遊ぼうと声を二人は掛けてくれた。

二人はバスで帰り、私は歩いて帰る。

妹を連れたあと、さささつと帰った。

別に今日あった事など伝えずに宿題をし、

ご飯も食べずに早めに寝た。

次の日。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6712x/>

---

ナイショの恋

2011年10月19日05時27分発行